

氏名	松岡 陽子
よみ	まつおか ようこ
英字	MATSUOKA, Yoko
プロフィール	2002年からケニア・エンブ社会でフィールドワークを開始し、以降定期的にケニアに通いながら文化人類学的研究に従事。名古屋大学在学中、日本学術振興会特別研究員を兼ねる。熊本大学助手、山口大学助教等を経て、現職。
職位	講師
最終学歴	名古屋大学大学院博士後期課程満期退学
学位	文学修士
所属学会・役職	日本文化人類学会、日本アフリカ学会、九州人類学研究会
専門分野	文化人類学、ケニア研究
研究テーマ	ケニア・エンブ民族の社会動態的研究、マウマウ戦争研究、シングルマザー研究、農村のスラム研究。
主な教育・研究及び社会的活動及び業績	<p>【教育】</p> <p>学生の海外研修引率（2013年ケニア研修、2014年・2016年サイパン研修、2013年・2014年・2015年韓国研修）。</p> <p>その他、リーダーシップ研修引率・指導多数。</p> <p>【学会活動】</p> <p>1) Asia Pacific Student Service Association（於同志社大学、2014年8月8日、教職員発表部門・司会、言語：英語）</p> <p>【海外調査】</p> <p>1) ケニアにおける現地調査（2002年8～9月、2003年7～9月、2004年7～11月、2005年7～9月、2006年10～2007年5月、2008年11月～2009年3月、2009年7～9月、2010年7～9月、2013年8月、2015年7～8月）</p> <p>2) イギリスにおける文献調査（2007年7～2008年5月）</p> <p>【奨励金・科研費】</p> <p>1) 2015年度 平成27年度科学研究費補助金（基盤研究S）「アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的地域研究」（研究代表者：京都大学アフリカ地域研究資料センター教授 太田至）</p> <p>2) 2010年度 高梨学術奨励基金</p> <p>3) 2010年度 東海ジェンダー研究所奨励基金</p> <p>4) 2009年度 公益信託渋澤民族学振興基金</p> <p>5) 2006～2008年度 日本学術振興会科学研究費（特別研究員奨励費）</p> <p>【論文】</p> <p>1) 2016年「遠野から考える新しい世界」『経済論集』熊本学園大学。</p> <p>2) 2013年「ケニア・エンブ社会のシングルマザーと土地相続：ケゼモ・ゲサギを中心として」『ジェンダー研究』第15号、東海ジェンダー研究所、109-133頁。</p> <p>3) 2011年「シングルマザー化する寡婦：ケニア・エンブ社会の婚姻と女性」『比較人文科学研究年報』No. 8、名古屋大学大学院文学研究科比較人文科学研究室、1-22頁。</p> <p>4) 2011年「希望のない土地：ケニア農村社会に成立したスラム」『九州人類学会報』第38号、九州人類学研究会、23-30頁。</p> <p>5) 2004年「文化接触の場面を生きる人類学者——人類学者とネイティブ間の互酬関係から」『熊本文化人類学』第3号、熊本大学文学部文化表象学教室・熊本大学大学院社会文化科学研究科文化学専攻文化形成論講座（連携）、28-34頁。</p> <p>6) 2003年「フィールドワークとその複数の言語状況——ケニア滞在の民族誌的覚書」『文学部論叢』第77号、熊本大学文学部、105-117頁。</p> <p>7) 2001年「オスカー・ルイス再考——『貧困の文化』の政治性」『文学部論叢』第72号、熊本大学文学部、35-50頁。</p> <p>【学会発表】</p> <p>1) 2017年「揺れる記憶と語り：マウマウ戦争と反植民地主義」（日本文化人類学会第51回研究大会、於神戸大学、2017年5月28日、個人発表）</p> <p>2) 2013年「変動するシングルマザーの社会的地位：ケニア・エンブ社会を事例として」（日本文化人類学会第47回研究大会、於慶応大学、2013年6月8日、個人発表）</p> <p>3) 2013年「立教大学・松村圭一郎准教授講演会「『市場経済化』とは何か？」（於熊本学園大学、2013年1月21日、コメンテータ担当）</p> <p>4) 2010年「希望のない土地：ケニア農村社会に成立したスラム」九州人類学研究会オースタムセミナー・セッションA「土地・法・不安：『開発』に揺れる人びと」（個別発表兼セッション・コーディネーター、10月30日発表）</p> <p>5) 2010年「揺れるケニア・エンブ社会の家族と結婚：シングルマザー、マウマウ戦争、土地を手がかりに」（拓殖大学ケニア研修会2010、於ケニア共和国エンブ県エナ、9月2日発表）</p> <p>6) 2010年「失われた男の『甲斐性』：ケニア・エンブ社会の動態とマウマウ戦争」（日本文化人類学会第44回研究大会、於立教大学、6月12日発表）</p> <p>7) 2010年「宣誓をめぐる言説：ケニア・マウマウ戦争を事例に」（日本アフリカ学会第46回学術大会、於奈良県立文化会館、5月29日発表）</p> <p>8) 2008年「エンブからみたマウマウ戦争：緊急収容村からの証言より」（日本文化人類学会第42回研究大会、於京都大学、5月31日発表）</p> <p>9) 2008年「不安定化する婚姻：ケニア・エンブ社会に生きる寡婦の視点から」（日本アフリカ学会45回学術大会、於龍谷大学、5月24日発表）</p> <p>10) 2007年「ケニアの女性と土地相続：『緊急収容村』跡地を中心として」（日本文化人類学会第41回研究大会、於名古屋大学、6月2日発表）</p>